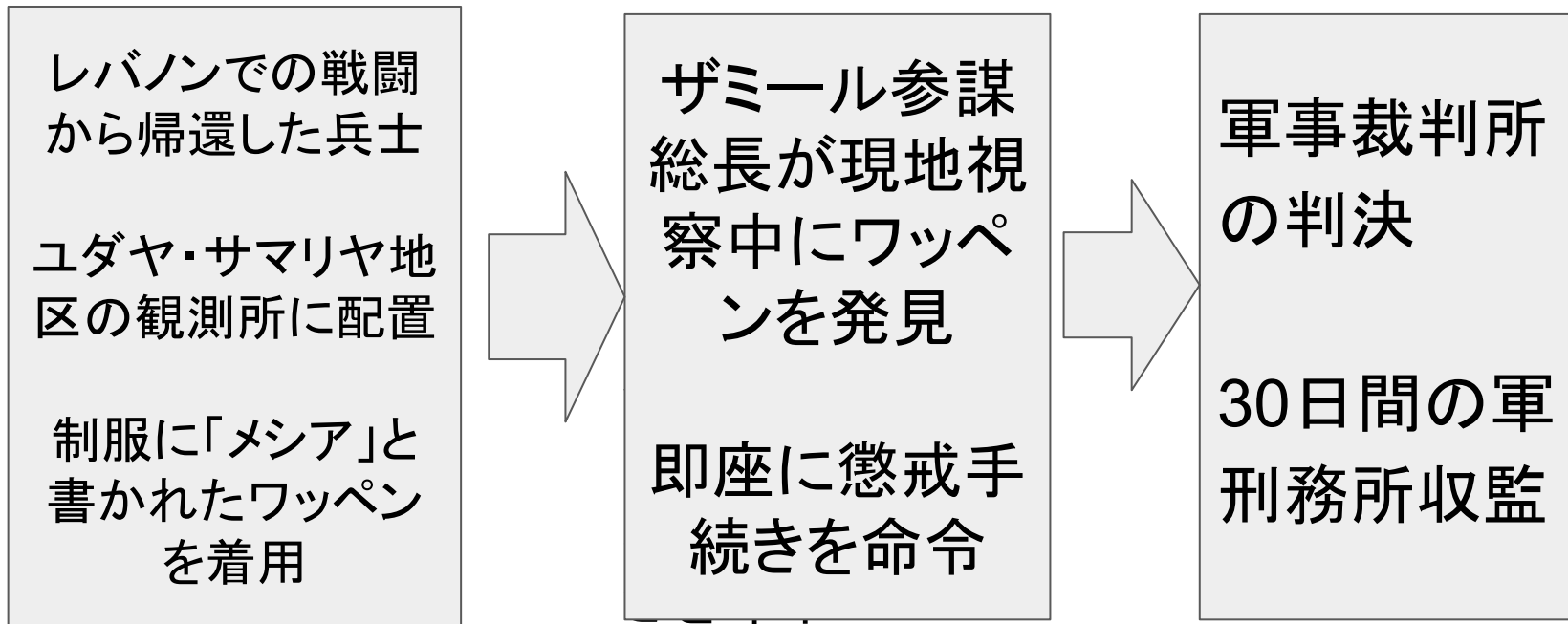


イスラエルのための祈り
メシアのワッペンで投獄事件
26年6月28日恵比寿BF

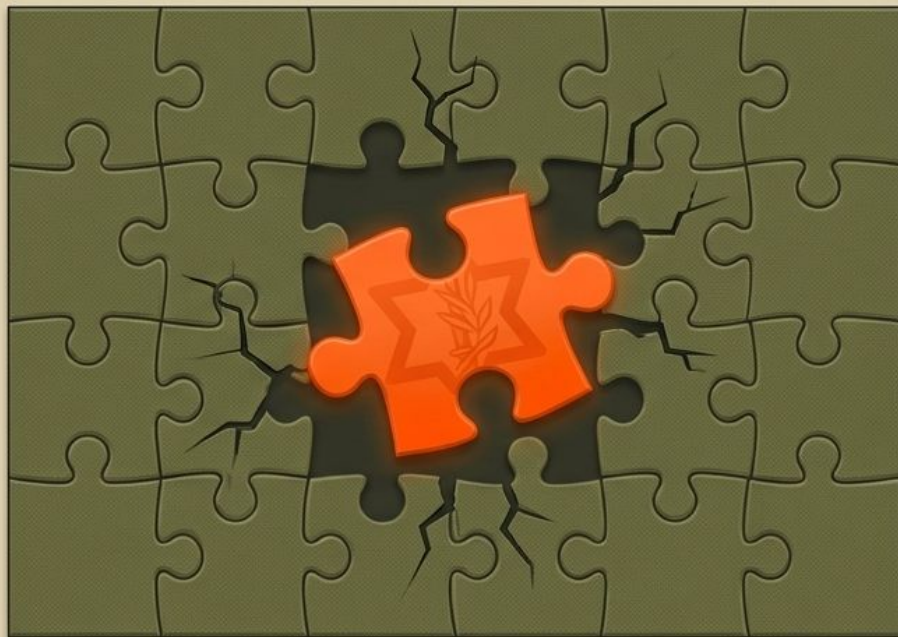


事件の経緯 30日間の投獄処分





参謀総長の視点：なぜ「ワッペン」は許されないのか？



「ハバッド・ルバヴィッチ運動」との結びつき

「メシア」の文字は単なる言葉ではなく、特定の宗教運動に関連するシンボル。軍の政治的・宗教的中立性を著しく損なう行為とみなされた。

明確な事前の警告

参謀総長の訪問に先立ち、部隊には「無許可のシンボル着用禁止」の明確な警告が出されていた。兵士はこれを意図的に無視した形となる。

「無許可のシンボルの増加は、イスラエル国防軍（IDF）の価値観に対する反逆である。」

— エイアル・ザミール参謀総長（前月の軍高官会議での発言より）

ハバッド・ルバビッチ運動

18世紀に東欧で始まったユダヤ教超正統派の分派(ハシディズム) 伝統的戒律を厳守

活発な宣教・支援(アウトリーチ): 従来のユダヤ教とは異なり、同派に属していないユダヤ人に対しても宗教的実践(安息日や祈りの指導など)を奨励、世界中に「ハバッドハウス」と呼ばれる拠点を展開

指導者(レッベ): 歴代の指導者、特に最後の指導者であるメナヘム・メンデル・シュネエルソン(第7代レッベ)の教えを重んじ、強い精神的結束を持つ



1902-1994

論争の核心：「軍の規律」vs「個人の信仰と敬意」

【軍上層部 (参謀総長) の論理】

最優先事項

軍の厳格な規律、政治的・宗教的中立性の維持、命令への絶対服従。

ワッペンの意味

指示の意図的な無視であり、軍の価値観に対する明確な反逆行為。

処罰の正当性

事前に再三警告していたにも関わらず違反したため、厳格な処罰は当然。

【保護者・右派政治家の論理】

最優先事項

前線で戦う兵士の士気維持、信仰の自由、命を懸けた者への最大限の敬意。

ワッペンの意味

個人の純粋な信仰の表明であり、過酷な戦場における精神的な支え。

処罰の不当性

戦功ある兵士に対する重すぎる処罰 (ワッペン警察)。愛国心への冷水。

権威を理解していた百人隊長 マタイの福音書 8章5～10節

"イエスがカペナウムに入られると、一人の百人隊長がみもとに来て懇願し、「主よ、私のしもべが中風のために家で寝込んでいます。ひどく苦しんでいます」と言った。イエスは彼に「行って彼を治そう」と言われた。

しかし、百人隊長は答えた。「主よ、あなた様を私の屋根の下にお入れする資格は、私にはありません。ただ、おことばを下さい。そうすれば私のしもべは癒やされます。と申しますのは、私も権威の下にある者だからです。私自身の下にも兵士たちがいて、その一人に『行け』と言えば行きますし、別の者に『来い』と言えば来ます。また、しもべに『これをしろ』と言えば、そのようにします。」

イエスはこれを聞いて驚き、ついて来た人たちに言われた。「まことに、あなたがたに言います。わたしはイスラエルのうちのだれにも、これほどの信仰を見たことがありません。"

イスラエルのための祈り

"人はみな、上に立つ権威に従うべきです。神によらない権威はなく、存在している権威はすべて、神によって立てられているからです。したがって、権威に反抗する者は、神の定めに従うのです。従う者は自分の身にさばきを招きません。"

ローマ人への手紙 13章1～2節

* 今回の事件は 国を分断しかねない難しい問題。権威を与えられている指導者たちも権威の下に置かれている人々も良い判断をできるように主が導いてくださるように。

* この事件をきっかけに イスラエルで「メシア」を求め、みことばを読む人々がたくさん起こされますように。

* 私たちも難しい判断を迫られた時、聖書に基づいた選びができるよう、ご聖霊の助けがあらわれますように。